

愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所長	光藤英彦
部長	山岡傳一郎
専攻医	若松貴哉
鍼灸部	村山功
	上郷樹夫
	玉井弘文
	山見宝
	真鍋昭生
研修鍼灸師	古野史花(3月転出)
	椎谷美保(3月転出)
	山下真幸(2年目)
	松浦正典(2年目)
	畑山和子(4月から)
	中島貴和(4月から)
	谷村依里(6月から)
研修医師	なし
薬局	赤崎達子
	山口裕子
看護部	福岡文子(8月転出)
	武智久美子
事務	大下由美(8月から)
	石丸真理(3月転出)
	佐々木鈴花(5月転出)
	大宮由起子(4月から)
	岡村由希香(9月転出)
	山本靖子(10月から)

1. 研究所概要と診療状況

愛媛県立中央病院東洋医学研究所は1979年(昭和54年)開設以来、今年で26年目を迎えた。四半世紀以上にわたり東洋医学、とりわけ灸療の普及に力を入れてきた。平成17年度は光藤所長の定年退職の年度にあたり、また県立中央病院としては9月にオーダリングシステムが導入され、大きな変化があり慌ただしい1年であった。東洋医学関係では、一昨年混合診療問題について政府内合意が成立したというニュースが報道された。先行きはまだ不透明な面もあり私共の研究所がこれからどのように関わっていくのか、またどのように発展させられるのか関心を持っていきたい。

これからの東洋医学が明るい地域社会構築の一助になるよう研究所所員一同、研究や診療活動に全力を尽くしていきたい。

以下に、2005年度(1月～12月)の業績と活動内容を報告する。

東洋医学研究所における診療について

私共の研究所は開所以来一貫して灸療主体の診療を、また1988年以後は時系列ケアシステムに基づく診療を続けてきた。過去20年は少しずつではあるが徐々に受診者数も増加傾向を続けていたが、ここ数年の受診者数は年間延べ18000人前後、新患数も600人前後と横這い状態が続いている。現在、医師3名をスーパーバイザーとするオーディット体制のもと、鍼灸師5名を統括し、それぞれ漢方担当・鍼灸担当として2人担当制で診療に当たっている。また看護師2名、薬剤師2名の診療スタッフがそれぞれの見地、立場からチーム医療としてのQOL志向の統合医療を支えている。また「お灸文化」を21世紀以降へ残し発展させるための土台として、ボランティア施灸コーナーの開設や、地域社会における灸療ボランティアの支援を図る教室(初級、中級、上級)を開催している。

東洋医学研修事業について

東洋医学に関する研修事業は、本来的には、医師、鍼灸師、薬剤師、看護婦、受付一般の6部門においてそれぞれ必要性があると考えられる。私共のところでは、医師と鍼灸部門及び一般部門での研修が始まっているが、将来的には上記6部門のすべての研修事業を試みる予定である。

医師部門では、平成5年度より東洋医学専攻研修医制度を設け、すでに専門的な臨床経験を積んだ専攻医が、毎年1名ずつ統合医学としての東洋医術(鍼灸・湯液両方)の研修を行っている。今までに4名の専攻医が育っている。将来東洋医学を専攻することを目的として全科的なローテイト研修を始めた新卒研修医が育ちつつある。また将来的には全国公募の研修医制度を実施することが期待されている。

鍼灸部門では、平成9年4月より鍼灸技術研修プログラムを開始した。この研修は、主に次の5つを目的としている。

- (1)高齢社会における『お灸によるケア』の指導者としての技量の養成
- (2)全人的病人把握法としての問診法(時系列分析法)のマスター
- (3)鍼灸・漢方を含む東洋医学全般の学習
- (4)現代医学の基礎学習と実施研修
- (5)現代医療のチーム医療の中でのメディカルスタッフの一員としての臨床的鍼灸実践

今年で9年目を迎えた事業であるが、今までに12名の研修鍼灸師が研修を終え社会に飛び立っていった。平成17年度は全国各地から3名の研修

生を迎え入れ、2年目の研修生と合わせて5名の研修生が日々臨床実習と多方面の学習に日々励んでいる。また西海町国保健康づくり推進事業として、平成8年度から5年間、国(厚生省)と町(西海町)の協力によって実施された灸療普及技術支援活動で協力を得た、福浦診療所の大川医師のもとでの、より実践に即した短期臨床研修も計画している。研修生はこれまでは関西鍼灸短期大学や明治鍼灸大学の卒業生が主であったが、平成12年度から専門学校卒業生も対象とした体制を取っている。平成18年度も若干名の研修生を受け入れる予定で、今後も鍼灸技術研修事業は継続するつもりである。

看護部門に関しては、所長光藤が平成10年秋から愛媛県立医療短期大学(平成16年度から4年制に移行)の看護部門で東洋医学概論の講義を担当している。今後の看護部門における東洋医学的研修の礎が築かれるのではないだろうか。

灸療ボランティア活動について

東洋医学研究所は開所以来、一貫して灸療を中心とした診療を続けてきた。四国地方は昔からお灸が盛んな土地柄で、県民にもなじみ深い療法として知られている。しかし近年、核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの家庭が増え、自宅で背中にお灸のできない人が目立ち始め、研究所の診療システムになじまない人が多く見かけられるようになった。そこで、背部灸のできない人たちに灸療の良さを理解してもらい、その普及と鍼灸師の研修を兼ねる目的で、平成13年3月より、スタッフ鍼灸師の指導下での研修鍼灸師による灸療ボランティアサービスの提供を以下の要領で開始した。

(1)対象者は東医研通院患者とし、通常の診療日以外に実施する(通常の再診と区別するため)。

(2)灸療ボランティア活動は午後のみとし、研修鍼灸師が担当する。

(3)灸療は背部灸療を中心とし、できるだけ自己灸療・家族灸療へ指導・誘導する。

2001年(平成13年)3月から開始した活動であるが、初年度は延利用者総数317名、2002年度では、延668名、月平均56名、2003年度では、延1751名、月平均146名にのぼった。2004年度は延2643名、月平均220名、今年度も延2800名を越え、月平均230名を突破し、最近では灸療人員を確保するのが難しい状況になってきた。本来は自己灸療や家族灸療の指導を行っていきたいが、なかなかうまくいっていないのが現状である。しかし東洋医学研究所としては、「お灸文化」の存続・継承をはかり今後も引き続き行っていくつも

りである。

灸療ボランティア支援教室の開催について

前項の「灸療ボランティア活動」に対して希望者が増加してきており、職員や研修生だけでは限界にきていて、家庭でお灸をすえたいという人を支援する「灸療ボランティア支援教室」を平成15年4月(毎年4回)から開始した。これは平成13年3月より所内にて開始した灸療ボランティア活動の延長線上と考え、地域社会において標準的な灸療の教養を身につけたボランティアの活動を支援することを目的とした教室である。対象者はえひめ東医研の患者のみならず、県立中央病院の患者・職員とその家族を中心に灸療ボランティアに関心のある人とした。講座内容としては初級、中級、上級の3つに分かれており、初年度(平成15年)は初級入門講座を4回(4月、7月、10月、1月)実施した。内容として、健康灸のススメ・日常灸療の注意事項・標準的な灸療をするコツ・灸療の意義や適応症、その他灸療に関するノウハウなどを取り上げた。平成16年度からは中級教養講座として、基本灸療学習コースの他に生薬学習コースも加えた講座内容で開始した(年4回)。H17年度からは上級専門講座として領域別事例紹介(深谷伊三郎氏の事例より取り上げた)と東洋医学的診立てと時系列分析学習などの講義も開始し、優秀な灸療ボランティアの育成に力を注いでいる所である。この支援活動が地域社会における灸療ボランティアの拡大につながっていくことを期待したい。

東洋医学啓蒙活動について

愛媛県内の各市町村だけでなく他の府県からの東洋医学全般の講演・健康まつりなどの実施依頼に対して、灸療による健康作りや講演会の開催及び灸療実技などを中心として、東洋医学の啓蒙活動に努めてきた。愛媛新聞カルチャースクールや、単発的な講演会などは以前からあったが、高齢化社会を迎えて東洋医学の需要が増大していくと予想され、これからは定期的な継続事業として力を注ぐつもりである。東洋医学にとって鍼灸と漢方が車の両輪に例えられるように、鍼灸だけでなく漢方薬の啓蒙にも力を注いでいきたい。

2. 学会報告

- 1) 山岡傳一郎, 若松貴哉, 光藤英彦: 東洋医学の入院患者への運用 第56回日本東洋医学会学術総会 富山国際会議場 富山市 2005.5.21
- 2) 若松貴哉, 山岡傳一郎, 光藤英彦: 灸療・味麦益気湯により改善した気管支喘息2症例.

- 第 56 回日本東洋医学会学術総会 , 富山国際会議場 , 富山市 , 2005.5.22
- 3) 松浦正典, 山見宝, 光藤英彦: 時系列分析と穴位所見の比較により患者理解を深められた症例 . 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2005,6,10
 - 4) 山岡傳一郎: シンポジウム「卒後教育を考えよう」. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会医の真髓 ~ 新しい医療資源を考える鍼灸 ~ , 福岡国際会議場, 福岡市, 2005,6,11
 - 5) 真鍋昭生, 光藤英彦: ガンという不安が身体不全意識として存在していた女性の 1 症例 . 日本刺絡学会 森ノ宮鍼灸専門学校 , 大阪市, 2005,6,25
 - 6) 玉井弘文, 若松貴哉: 父没後親族ストレスに関連してめまいを発症した 74 才男性例 . 日本東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 7) 真鍋昭生, 光藤英彦: ガンという不安が身体不全意識として存在していた女性の 1 症例 . 日本東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 8) 上郷樹夫, 山岡傳一郎: 閉経期発症の慢性健康障害が心配事を契機に再燃した 69 才婦人例 . 日本東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 9) 畑山和子, 村山功, 山岡傳一郎: パニック発作を訴えてきた 31 才女性例 . 日本東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 10) 大宮由起子, 山見宝, 若松貴哉: 二週間の施灸で耳鳴りが改善した事例 . 日本東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 11) 岡村由希香, 山見宝: 不眠に対する灸療の分類と一症例 . 東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 12) 松浦正典, 山見宝: 時系列分析を行うことにより治療方針の修正が円滑に行われた症例 . 東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 13) 山下真幸, 光藤英彦: 1 経穴に 2 つの経穴名「彘中」と「或中」. 東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 14) 村山功, 若松貴哉: 「中条流不妊の灸」が奏功したと思われる事例 . 東洋医学会中四国支部第 33 回愛媛県部会, 松山医師会館, 松山市, 2005,9,11
 - 15) 上郷樹夫, 山岡傳一郎: 閉経期発症の慢性健康障害が心配事を契機に再燃した 69 才の 1 婦人例 . 第 43 回愛媛県立病院学会, 愛媛県医師会館, 松山市, 2005,11,19
 - 16) 村山功, 若松貴哉: 「中条流不妊の灸」が奏功したと思われる 33 才女性例 . 第 43 回愛媛県立病院学会 愛媛県医師会館 松山市 2005,11,19
 - 17) 真鍋昭生, 山見宝: 東洋医学研究所活動報告 . 第 43 回愛媛県立病院学会, 愛媛県医師会館, 松山市, 2005,11,19
 - 18) 山岡傳一郎: 伝統医療における心とからだのとらえ方 第 15 回日本人体科学会 愛媛大学, 松山市, 2005.12.3
3. その他の報告、講演等
- 1) 山岡傳一郎: 外来診療における医療面接の重要性 ~ 患者歴・家族歴を重視する時系列分析法 (NBM の一手法) の紹介 . レジデントノート Vol.6No.12 (3月号) 2005.3
 - 2) 山岡傳一郎: 「病診連携と漢方治療」. 内科病診連携研究会, 松山国際ホテル, 松山市, 2005.3.23
 - 3) 山岡傳一郎: 漢方薬の運用とその実際 . 薬剤師のための漢方医学研修会, 愛媛県薬剤師会館, 松山市, 2005.5.24
 - 4) 玉井弘文, 中島貴和: 女性学級「東洋医学と健康」. 松山市石井公民館, 松山市, 2005,6,21
 - 5) 山岡傳一郎: 愛媛県立中央病院における臨床研修 愛媛大学医学部臨床研修指導医講習会, 愛媛大学医学部, 東温市, 2005.7.18
 - 6) 玉井弘文, 中島貴和: 三津浜地区社会福祉協議会福祉講座「東洋医学と健康」松山市厚生福祉センター, 松山市, 2005,8,22
 - 7) 山岡傳一郎: 公務員の健康管理に役立つ東洋医学 松山市役所平成 17 年度健康管理研修会, 松山市役所, 2005,10,5
 - 8) 山見宝, 真鍋昭生, 谷村依里: 「東洋医学と健康」. 愛媛県老人クラブ連合会健康作り大学, 愛媛県長寿振興センター 松山市 2005,10,18
 - 9) 真鍋昭生, 谷村依里: 「東洋医学と健康」. 愛媛県高齢者大学, 愛媛県長寿振興センター, 松山市, 2005,11,8
 - 10) 山岡傳一郎: 東洋医学への誘惑 ~ 漢方薬の特徴・使用する際の心掛け ~ 漢方指導講習会, 松山市, 2005.11.12